

# 富山県鑿井協会 第10回定期総会

富山県鑿井協会第十回(平成十七年度)定期総会が当協会事務所にて平成十七年五月二十日(金)午後三時三十分より開催された。当日は、八件の議案について審議が行われ、原案通り議決承認された。また、第十回定期総会終了後には富山第一ホテルにて懇親会が開催され、会員と賛助会員との親睦を深め合った。

## 平成十七年度役員

会長 内山 祐治

副会長 土合 拓也

専務理事 土肥 勝則

理事 丸田 勝文

監事 土合 一弘

## (議案)

第1号議案 平成16年度会議実施報告承認の件

第2号議案 平成16年度事業実施報告承認の件

第3号議案 平成16年度収支決算承認の件

第4号議案 平成17年度役員改選及び承認の件

第5号議案 平成17年度事業計画(案)承認の件

第6号議案 平成17年度収支予算(案)承認の件

第7号議案 平成17年度会費の額及び徴収方法決定の件

第8号議案 その他

## 平成十七年度事業計画

### 政調部会

1. 関係官公庁への陳情及び要望の実施

2. 正会員及び賛助会員の拡充

3. 『井戸の日』啓発推進プロジェクトチームの発足

4. T S A G杯の実施

### 総務部会

1. 人材の育成

2. 会員相互の親睦及び研修会の実施

3. 『かわら版』の発行(年3回7・11・3月)

4. 安全衛生講習会の実施

5. 研修旅行の実施

6. 屋食座談会(年3回)の実施(会費制)

### 技術部会

1. 設計・積算講習会の実施

2. エアーマニキュアルの積算歩掛の作成

3. 井戸管理マニュアルの見直し

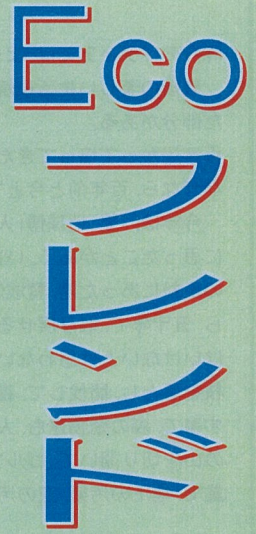
4. 施工管理基準検討委員会の発足

5. ホームページの維持管理

6. 富山県地下水マップの製作



定期総会で挨拶する内山会長(於富山県鑿井協会事務所)



Vol. 13

【発行】平成17年7月  
富山県鑿井協会

〒930-0992 富山市新庄町一丁目十九番号

☎(076)441-1425

Fax (076)441-1427

http://www.atw.ne.jp/tomisaku/

E-mail: tomisaku@atw.ne.jp

## 第10回定期総会を終えて

富山県鑿井協会 会長 内山 祐治 氏

全国鑿井協会に加盟する富山県メンバーが集まって発足した富山県鑿井協会がはや10年を迎えました。

その間、会員の出入りがあったものの現在、正会員8社、賛助会員17社で構成しております。

発足当初は建設省北陸地方整備局の指導の下、消融雪維持管理マニュアル編集ワーキングチームに名を連ねました。その後、地元の井戸管理に関するマニュアルの必要性を感じ、1998年より富山県独自の「井戸管理マニュアル」編集チームを立ち上げました。

その当時は、若い世代の後継者が幾度も集まって編集作業に追われ、後の普及活動など冷汗を掻きながら出来上がった最初で大きな成果ではなかったでしょうか。それが、富山県鑿井協会の自立を促し2001年の「井戸の日」の制定・記念事業の始まりに繋がってまいりました。しかし、バブル崩壊から建設業界の大変動(公共建設投資の激減、官庁・業界・政界の再編、地方分権、財政破綻等)の真只中であってその現実味と共に非常な危機感を感じておりました。

そのなかで協会の若い経営者が主体となった平成12年4月からの現執行部体制による運営を着実に進め、2001年第1回『井戸の日』記念事業を起こしました。

如何に「井戸の日」の趣旨を理解して貰って全国に如何に広めるか、また如何に資金を集めるかが問題でした。まずは地元メディアによる広報からはじめ、それと共に関係機関のご支援を頂いての記念イベントを1月10日に開催することを取り決め、実行してまいりました。徐々にその関係者の輪を広げ繋げて、平成15年(2003年)より富山・水文化の財団と北日本新聞社との間で井戸の日実行委員会を発足し、富山県の元気な雪国作り事業(2003年認可)、親水ふれあい事業(2004年認可)の助成を受けることもできました。

お蔭様で石川県、福井県の鑿井協会からも応援を頂き、全国鑿井協会が発刊している「鑿井(さくせい)」に2004年から富山県の「井戸の日記念フォーラム」として掲載して頂き、2005年には「井戸の日」事業の節目の年としてとやま国際健康プラザで「とやまの水と健康」をテーマに基調講演、パネルディスカッションを始めミニ実験コーナー、聞き水大会、地下水に関する展示ブースの様態等を取り上げて頂きました。

今後も「井戸の日」の普及活動、地下水マップの制作、さく井工事施工マニュアルの整備や地下水管理技術者の育成等について全鑿協北陸支部、全国鑿井協会との連携を深め、取組んでいきたいと思っております。また、これまでご指導、ご支援いただいた関係各位には引き続き私達の事業にご協力賜りますよう、そして富山県鑿井協会が一丸となって私達が暮らす地域が末永く利用可能な地下水環境を維持出来るよう努めて行きます。

## (社)全国鑿井協会情報

(社)全国鑿井協会第31回通常総会(参議 協会長)が東京建設会館にて平成17年5月27日(金)午後4時より開催され、当日は9件の議案について審議が行われた。又、(社)全国鑿井協会北陸支部では平成17年5月11日(水)正午より石川県土質研究協同組合にて平成17年度通常総会が開催され、7件の議案について審議がなされた。なお、平成17年度より北陸支部長として協会員の土合精一氏が選任された。

## ご挨拶

(社)全国鑿井協会北陸支部長 土合 精一 氏

この度は、富山県鑿井協会設立10周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

さて、近年、地下水を巡る環境は、全国各地域において様々な諸問題を抱えています。

大都会の水規制の強化による地下構造物の崩壊の危機(地下水位の上昇)、積雪地方では一定期間の極度の水不足、企業誘致された工場揚水による近隣の水位降下による枯水、或いは水質汚染などがあります。

我々全国鑿井協会は、これらの諸問題に立ち向かい、地下のメカニズムをどの様に変え、更にどの様に有効活用していくかが重要な課題であります。

また、我々の果たす役割として、井戸の貴重価値、地下水の大切さを一人でも多くの方々に理解して頂くのが大きな使命であります。

さて、富山県鑿井協会では、2001年より全国で始めて1月10日を『井戸の日』と定め、本年も『井戸の日』記念フォーラム2005をとやま健康パークで行い、大盛況に終わりましたことは、ひとえに県民の御支援と御理解の賜物と感謝する次第であります。

また、このイベントを通して井戸の知識を理解していただき、一体となって地下水とのより良い付き合い方を模索する事が、良質な水環境を実現するための一助になると考えています。

『井戸の日』記念フォーラム』の更なる展開として富山から北陸そして全国に発展するように寄与していきたいと思っております。会員相互の理解を深め、当該協会の益々の発展を願って、全鑿協北陸支部長就任の挨拶とさせていただきます。

## 環境問題について

(株)アイビグ 川田 智子 氏

昨今のメディアでは、よく環境問題が取り上げられている。

戦後の著しい生活環境変化によって、潤ってきた部分と、逆に失くしてきた部分がある。

百年掛かって培ってきたことは、百年掛かって、取り戻す事は出来ない。なぜなら、百年前と今とは環境が、あまりにも違うからです。

今年、「愛・地球博」人と地球の環境問題が揚げられているが、一つ疑問に思ったことがある。いまさらの事であるが、瀬戸会場の森の伐採が住民の反対にあった時、賛成派のある人が、「たった五十年前に植林したのだから、五十年で、取り戻せる」と。おかしな話です。しかし、まったく木を切っただけとはいえないと思わない。植林しただけでは、森は死んでしまうからです。枝を落とし、間伐して、森に光を与えれば森は生きてきます。雑木林を増やす事で、森の動物達も、人里の畑を荒らす事も少なくなるでしょう。動物達の山を切り開いて、ゴルフ場やレジャー施設の建築をしてきた人間の欲と業で、地下の汚染、空の汚染、地上の破壊が生まれた。何十年掛かって、元

の住みよい環境にしていくのだろう、皆無に等しいのではないかと…。年間、人ひとりが呼吸時に出すCO<sub>2</sub>は、木立15～16本で、吸収してくれる。これからの課題として、森を育て、かつ守って行かなければならないと思う。

ペットホテルが初めて世に出た時、すごいと思ったが、結局それも、環境破壊につながっている。

ゴルフ場管理にしても地下汚染である。きれいな芝を保つのにどれだけの農薬が使っているのだろうか。何もかも、飽食の時代が招いた排泄物である。

五十年前に、水が商品として売れるとは、誰も思わなかった。

空気、水、ただで天から与えられた物を、人間は金に換えている。そのうちに、誰もが空気を購入するのに、長い列を作る…なんて時代が来るかも知れない。



(株)アイビグ

建設用ワイヤーロープ、スキーリフト  
ワイヤー販売

愛知県西春日井郡清洲町丸の内1933

TEL 052-409-5511

FAX 052-409-2035

## 平成十七年度安全大会開催

平成17年7月15日〔金〕午後1時30分より富山流通会館にて平成17年度安全大会が開催され、当日は20名の参加者が研修に参加した。はじめに『建設業労働安全マネジメントシステム(COHSMS)について』というテーマで当協会会長 内山氏(建設業労働災害防止協会 主催『COHSMS 構築担当者研修講座』終了)より講義をいただいた。講義の中でCOHSMS(コスモス)は今後入札導入の条件の一つになっていくのではないかと同氏より見解いただいた。その後、同理事の丸田氏の指導により、『施工手順書作成とKY活動の説明』というテーマの下、参加者が3班に分かれ、前述のCOHSMSを踏まえながら、作業の危険箇所や危険度等について班別に話し合い、最後に班毎の討議の結果について発表を行った。日常の業務に直接深く関係のある内容で、参加者も真剣な面持ちで取り組み、闊達な意見の応酬が見られた。

### COHSMSの目的とシステム導入のメリット

COHSMSの目的は、建設事業者と社員のみならず、店社と作業所が一体となって、「計画(P)一実施(D)一評価(C)一改善(A)」のサイクルを回し、作業所における労働災害の潜在的な危険有害要因をなくし、健康の増進と快適職場づくりを実現し、建設企業の安全衛生水準の向上をめざすことです。

このシステムの導入により、次のようなメリットが期待できます。

- (1)安全衛生管理のノウハウの確実な継承ができ、更に人材育成を図ることができるようになります。
- (2)労務安全衛生実務を組織的・効率的に実施することができるようになります。
- (3)企業にマッチした独創性に富んだマネジメントツールの開発が可能となります。
- (4)企業の安全衛生水準が連続的・継続的に向上が図れるようになります。
- (5)日常の地道な安全衛生活動が適正に評価されるようになります。
- (6)企業のイメージアップが図れます。



〔出典：『<http://www.kensaibou.or.jp/data/shiryu/COHSMS/index.html>』〕

## ◆協会通信◆

### ～地下水マップ作成(完成)を目指して!! -発進編-

我々、富山県整井協会では地下水マップを作ることをこの度決意いたしました。井戸データベースのマップは既にインターネット上で配信されているところもあります。私共は市民向けに、わかりやすい地下水マップ作りをしようというコンセプトで進めてまいります。

- 《協会の思い》
- ・協会発行の『井戸管理マニュアル』に掲載されている、一般の方にわかりやすい地下水断面のようなものを載せるとか、帯水層やポンプの位置もわかるようなものを載せたいなあ。
  - ・「周辺地下水水位への影響を考慮して、第2・3帯水層から汲み上げるので大丈夫ですよ」という話をお客さんにする場合でも、わかりやすく説明できるような地下水マップがあれば、とっても便利!!
  - ・場所によっては水質が違うことがあるので、自慢できるおいしい水作りをすることによって、井戸の価値を高めるものがない。
  - ・10年後・20年後になっても使ってもらえるようなものを作っていかなければならないと思う。(←強い使命感に燃えています。)

実現までの道は険しいものですが、協会員一同頑張っています。もしも、何か良いご意見(お知恵)等がありましたら、取り入れていきたいと思っておりますので、是非協会までご連絡下さい。よろしくお願致します。

### 〔編集後記〕

最近熱中症で倒れたり、死亡されたりする方が多くなっているというニュースをよく耳にします。炎天下の戸外では40度以上になることもしばしばあるそうです。(室内でも安心できませんが…)愛知万博でも無料の給水コーナーがすごく人気があるとか。又、行列場所では日影スペースを増やしたり、送風装置が設置してあったりと、主催者側でもかなり配慮されているようです。行き先がそのような場所ばかりとは限りませんので、熱中症対策の基本としての水分補給!これを絶対欠かさないように十分気をつけて皆様もお出かけになって下さい。

—総務部—

## ◆水にまつわるいい話◆

### ～黒部峡谷鉄道

### 釣鐘温泉旅館に足湯場新設に際して～

(秘境黒部奥山の湯)「若返りの足湯」

丸田工業(株) 丸田 信夫 氏

むかしむかし、布施谷節で有名な布施の里に信助という親孝行な若者が住んでいました。あるとき母親が重病になり、年老いた父親は看病しながら、若く元気な頃に熊狩りでもまよさまよい、黒部奥山の鐘釣の河原に湧く温泉にたどり着いた時のことを思い出しました。

疲れた体を湯に浸しながら一口飲むと気が充実し、二口飲むと顔色が明るくなり、身も軽くなり、急峻な黒部の山々を越えながら狩りを続けることが出来たのです。

父親は信助に母親のためにお湯を取りに行ってくれるよう頼みました。信助は快く承知し、一斗樽を背負い、食べ物も十分に用意して出かけました。一日目は、僧ヶ岳を越えた沢で泊まり、二日目に片貝谷より黒部の峰を越えて奥黒部の河原に着きました。三日目に温泉を見つけ樽に詰めて休みました。そしてその樽を背負い、険しい谷や峰を越えて7日目でようやく家にたどり着くことができました。

父親は大変喜び、早速その湯で薬草茶を点て病気の妻に飲ませ、残りの湯で足湯を湧かして病人の足を浸しました。すると病気はたちまち良くなり、信助は村でも評判の気立ての良い娘さんを嫁に迎えて、それからは孫も生まれて家族仲良く幸せに暮したとのこと。いい湯だな～いい湯だな!

ふせんたん  
布施谷 節 (富山で初めて日本一になった民謡です)

山の上から谷底見ればウリやナスの花盛り。(先歌)

(後歌) 親の意見とナスの花は千に一つも無駄は無い

